

街なみ瓦版

令和7年度 第5号

戸次小4年生の児童へ 杏の会の街なみガイド



令和7年10月30日（木）、「杏の会」が4年生3クラス81名の児童を対象に街なみガイドを行いました。

4年生にわかるように言葉を選びながらガイドを行い、子どもたちは筆記しながらガイドの説明を熱心に聞いていました。その後、子どもたちはガイドで聞いたことをまとめ、新聞を作成しました。

その新聞から子どもたちの感想を一部抜粋します。

【子どもたちの感想】

- ・ガイドさんの説明が聞き取りやすかったです。
- ・杏の会の人たちのおかげで本町のことを色々と知りました。そして本町では昔の歴史がたくさんあるんだなあと思いました。
- ・これからも戸次本町の歴史をみんなに伝えていきたいと思いました。
- ・戸次本町はとても良いところで、いろいろな建物があって、昔の歴史をしれるので、ぜひ一度、行って見てください。

「大南いろはカルタ大会」は大盛況となりました



令和5年から作成してきたカルタが、令和7年12月に完成しました。

令和8年1月25日（日）、初めての試みとなるカルタ大会を開催しました。今回は小学校6年生のみを対象に参加者を募集し、16名の子どもたちが参加してくれました。

当日は参加者を4つのチームに分け、3回戦を実施しました。各試合の合計取得札数の多い上位4名が決勝戦へ進出し、白熱した戦いが繰り広げられました。

大会の運営にあたっては、学校の先生方にご協力をいただきました。

また、校長先生も見学に来られ、子どもたちの真剣で生き生きとした姿を見守っていました。

子ども達は終始真剣に、そして楽しみながら取り組んでおり、その姿がとても印象的でした。

初開催ではありましたが、参加者の笑顔があふれる大会となりました。

大南いろはカルタは大南地区の魅力を題材にし、郷土のことをカルタを通じて学ぶことができます。

今回の大会を通じて、カルタは年齢を問わず、子どもから大人まで、さまざまな形で楽しめるものであると改めて感じました。

また、カルタ大会を開催することにより、地域と人、人と人をつなぐ大切なツールとして、その役割を十分に果たせると強く実感しました。



視察のご報告 ～その①～

昨年度、まちなみ整備課によるまちづくりマネジメント支援業務で広島県尾道市の方が戸次本町に来てくださった関係で、今年の視察は広島県尾道市へ行くことになりました。街なみ瓦版にて、視察で尾道から学んだことを戸次にどう活かすかを連載していきます。第1回目は、大南支所地域おこし協力隊の平野からスタートします。

【視察のスケジュール】 実施日：2月1日（日）、2月2日（月）

1日目 福山駅着 → ^{ともものうら} 鞆の浦 → 尾道

2日目 尾道(千光寺) → ①歴史コース
②古民家のお店巡りコース

主に回った鞆の浦と尾道は、歴史的な建物が多くあり、歴史と文化を活かした街づくりや、尾道では官民連携による空き家再生事業が発達に行われており、今回の視察は大変多くの学びがありました。

学んだことを私の観点からほんの一部になりますがお伝えします。



広島県



ともものうら
鞆の浦

古くから潮待ちの港として栄え、万葉集にも詠まれています。一部の地域が国の「重要伝統的建造物群保存地区」です。映画「崖の上のポニョ」のモデルの街で観光客や、移住者も多くいます。

そんな鞆の浦に3年前に移住した長田さん夫婦がホームページ等で発信する「暮らし観光」とは、地域の暮らしやコミュニティがもっとよくなる観光のあり方で、「暮らしと観光の関係性をよりよいものにしたい」という思いから、「暮らし観光」の取り組みが始まり、空き家を活かして地元に住んでいる人が集えるコミュニティスペースの展開や、「ともたち」という本を出版し、鞆の浦に住んでいる人の情報も発信しています。

「暮らし観光」が
テーマの本→



尾道

尾道で大変興味深かったことの一つは、地形、文化交流の地、醸造業によって街が発展した等、戸次との共通点が多いことです。

また、戸次本町出身の帆足杏雨は南画家の師匠である田能村竹田と尾道を訪れ、文人と交流し、尾道をテーマにした作品が残っています。千光寺付近には田能村竹田の銅像がありました。

田能村竹田と帆足杏雨は尾道の醸造業で有力な商家をしていた橋本家に長期滞在し、そこで詩を詠み、絵を描く「文人サロン」のような交流を繰り広げました。帆足家も醸造業の商家で橋本家と大きな共通点があります。杏雨にとって尾道は、単なる旅先ではなく、自身の芸術性を磨き、多くの知己を得た重要な「第二の故郷」だったのではないかとされています。



↑田能村竹田の銅像



↑尾道の商店街にあった店



↑ガウディハウス

もう一つは、空き家の利活用です。

築年数が古い建物が多くありましたが、取り壊しをせずにリノベーションをし、古いものを良い味として捉え、魅力的な建物にしているところが多くありました。

用途はゲストハウス、アートスペース、イートインができる無人のおにぎり専門店など多様でした。「こんな発想があるのか！」と私自身大変刺激を受けました。

私は10歳の頃に戸次に引っ越してきましたが、戸次の歴史や文化を知ったのは地域おこし協力隊になってからで、戸次は養蚕業が盛んで呉服店が多くあったことや、尾道のような文化の交流があった場所だったということは帰郷するまで知りませんでした。

地元の地域の歴史や文化を知ることにより、郷土愛が生まれます。地域おこし協力隊として歴史や文化の継承の発信や、体験ワークショップを開催し、次世代に戸次の歴史や文化を継承していきたいと思います。